

令和6年度 前・後期学校評価

伊予市立佐礼谷小学校 令和7年2月

- 【アンケート結果】 4：大変よい 3：よい 2：やや改善を要する 1：改善を要する
 【評価基準】 A：肯定率90% B：肯定率80%以上 C：肯定率60%以上 D：肯定率60%未満
 【目標値評価】 A：全体肯定率90%以上 B：全体肯定率80%以上 C：全体肯定率60%以上 D：全体肯定率60%未満

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	前期・後期	目標値評価	前回調査比 向上は青 低下は赤	学校による考察・改善	評価資料	評価基準	肯定率	アンケート結果(%)			
										4	3	2	1
教育課程・学習指導	確かな学力の 定着と向上	複式及び個に応じた指導法の工夫と改善を行い、基礎・基本の確実な定着に努めているか 目標値：教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A		肯定率が高かった。教職員間で複式の授業における課題を検討したり、授業改善に向けて情報交換を行ったりしている。EILSの検定機能やドリル機能等を活用し、個に応じた基礎・基本の定着に努めている。今後確実な定着につながるよう、引き続き研修を行いたい。	児童 保護者 教職員① 地域住民	A	100	33	67	0	0
			後期	A		朝学習でEILSの検定やドリルを繰り返し行うことで、基礎的・基本的な内容の定着に努めることができた。また、全学級で研究授業を行い、複式授業における指導やICT活用などについて研究を進めることができた。児童の実態に応じた指導ができるように、引き続き研修を行いたい。	児童 保護者 教職員① 地域住民	A	100	83.3	16.7	0	0
		体験的・問題解決的な学習を充実させ、自ら考え、判断し、主体的に実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A		地域の方や外部講師を招いて、様々な体験活動を行うことができた。体験活動を通して、意欲的に課題解決に向けて活動する児童の姿が見られたが、自ら考え課題を設定するという点においては、見直しの余地がある。引き続き、体験活動を充実させ、主体的に実践する態度を育てていきたい。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A	100	40	60	0	0
			後期	A		目標値・肯定率の変化はないが、教職員の評価は若干上がっている。体験的・問題解決的な学習の機会が多いが、自ら考え、判断し、主体的に実践する態度の育成については、引き続き意識して取り組みたい。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A	100	40	60	0	0
		指導過程、指導法の工夫を図り、豊かに表現する力を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A		児童数の減少により、主体的に一人学習に取り組んだり、学習課題について児童同士で話し合い、考えを比べ合ったりすることが十分にできていない。見通しを持って学習に取り組めるよう手順を示す、多様な考え方を提示する、自分の思いを発表できる場をより多く設定するなど指導方法を工夫し、意欲的に学ぶ児童を育てていきたい。	児童⑫ 保護者② 教職員③ 地域住民	B	88	62.5	25.0	12.5	0
			後期	A		前期に引き続き、100%の肯定率となった。ICTを活用し、個に応じた学習指導や復習等に取り組んだ成果もあり、主体的に学習に取り組もうとする児童が増えた。具体的な話形を示したり、相手意識を持たせた言語活動に重点を置いて指導したりしたことで、児童の表現力も伸びてきていると感じる。	児童⑫ 保護者② 教職員③ 地域住民	A	100	62.5	37.5	0	0
	家庭学習の習慣が身に付いているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	B		学年に応じた家庭学習の時間が十分に達成できていない児童もいる。保護者や児童を相談しながら、宿題の量や内容を個に応じて調整したい。また、自分に合った学習ができるように、自主学習の取り組み方を提示することや、計画的に家庭学習ができるような課題の出し方を工夫することなど自ら学ぶ習慣を身に付けさせたい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	B	88	50.0	37.5	12.5	0	
		後期	B		児童の評価がAになったが、「よくできている」の割合は減っている。宿題の量や内容を児童に応じて調整しながら、学年に応じた家庭学習の時間を確保できるようにしたい。また、家庭学習が負担にならないように、保護者や児童とも引き続き相談し、児童が前向きに家庭学習に取り組めるようにしたい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	B	83	33.3	50	16.7	0	
	道徳教育の充実	自他の生命を尊ぶ、優しい心を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	A		給食や掃除、授業中など異学年での活動が多く、上級生が下級生に対して声掛けをしながら、助け合ったり協力したりすることができている。その優しさが言葉遣いやその場に合った言動にもつながることができるように、全教育活動を通して育てていきたい。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A	100	62.5	37.5	0	0
			後期	A		引き続き評価Aであった。毎月友達のよいところを掲示したり、放送で紹介したりする活動が、友達への優しい言動につながっていると考えられる。引き続き、様々な活動を通して、互いを思いやることのできる児童を育てていきたい。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A	100	62.5	37.5	0	0
		人とふれあい、思いやりの心・感謝の心を持ち、自ら実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員、地域住民80%以上が肯定(3・4)	前期	A		評価はAとなっているが、やや改善を要すると評価した児童、保護者、地域の方がいる。同じ言葉でも嫌な気持ちをする人もいる、自分と相手の受け取り方は違うということに気付くことができるように、その都度声掛けや指導をしたり、道徳科等の授業をとおして相手を思いやる言動について考えさせたりしていききたい。そして、実践しようという態度につなげたい。	児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	B	88	50.0	37.5	12.5	0
			後期	A		児童・教職員の評価が若干上がっている。校内では、丁寧な言葉遣いを意識して使えるようになってきている。相手を思いやる言動が、家庭や地域でもできるように、道徳科等の学習や日々の教育活動を通して実践意欲を育てていきたい。	児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	A	100	37.5	62.5	0	0
前期			A		全体計画を基に、学年に応じた人権・同和教育を行っている。校内外での研修をすることで教職員の人権感覚を磨き、引き続き、学校の教育活動全体を通じて推進に努めたい。	児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤	A	100	40	60	0	0	
後期			A		引き続きA評価であるが、地域の評価が若干下がっている。人権・同和教育参観日では、保護者や地域の方に授業を参観していただき多数の御意見をいただいた。来年度に向けて全体計画を見直し、児童の実態に合った人権・同和教育を行いたい。また、保護者や地域への発信もしていきたい。	児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤	A	100	60	40	0	0	
読書活動を通して、豊かな感性や創造力を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	B		登校時間を遅らせたため、朝の時間に図書室に行く児童が減り、昨年度より読書量が減っていると考えられる。朝読書以外に読書の時間を設定したり、読書を土日の宿題に出したりするなど読書活動を進めたい。また、授業の授業に合った本を紹介し、平行読書をするなどで学習を深めることにもつなげたい。	児童 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	C	63	25.0	37.5	25.0	12.5		
	後期	B		図書館で本を借りる児童が増え、学級でも本に親しむ姿が多くなった。ただ、偏った傾向も見られるので、学年に応じた図書を紹介し、幅広いジャンルの本にも親しめるようにしたい。家庭でも読書に親しめるように、親子読書の日を設けるなどの取り組みもしていきたい。	児童⑪ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	B	88	50	37.5	12.5	0		
学校関係者評価委員の所見	・家庭学習に関しては、家庭でもかなり促すが、取り掛かるまでに時間がかかる。保護者としても悩んでいる。 ・先生は様々な手立てを考え子供たちに働きかけてもらっている。 ・読書はどうしても本の種類に偏りがある。いろいろなジャンルの本を読んでほしい。		学校の対応		・保護者や児童と相談しながら、宿題の量や内容を調整し、学年に応じた家庭学習の時間を確保できるようにする。児童にも計画的に家庭学習ができるよう声掛けをしていく。 ・読み聞かせや教職員のおすすめの本を紹介するなどして、子供たちの読書の幅を広げていく。								

研修	教職員の資質と指導力の向上	計画に沿って研究授業を行い、授業改善に積極的に取り組んでいるか	前期	A	授業改善については、複式授業の充実を目指し実践を重ねている。今年度は児童が目的意識や相手意識を持って学習したことを伝えたり、課題解決のためにICTを活用したりすることについて研修を深めている。	児童 保護者 教職員(17) 地域住民	A	100	20	80	0	0
		目標値：教職員の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	後期は、各学級担任が複式の授業実践を行い、授業改善に努めた。また、来年度の「伊予市のくらし活用研究会」に向けて教職員間で共通認識を行い、準備も進めることができた。	児童 保護者 教職員(17) 地域住民	A	100	66.7	33.3	0	0
		教職員のコミュニケーション能力は高まっているか	前期	A	大変高い肯定率を得られている。学校・家庭・地域が連携するためにも、重要な内容である。しかし、保護者の中に「2:やや改善を要する」と感じてられている方がいる。挨拶や連絡、積極的な声かけなど今後も保護者・地域の方とのコミュニケーションを大切にしていきたい。	児童 保護者(15) 教職員(18) 地域住民(8)	C	75	25	50	25	0
		目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	12月の学級PTAでは、「モルック」を行い、児童、保護者、教職員間の親睦を図ることができた。今後も開かれた学校を目指し、教職員同士、保護者と教職員、地域住民と教職員のつながりやコミュニケーションの場を大事にしていきたい。	児童 保護者(15) 教職員(18) 地域住民(8)	B	80	20	60	20	0
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観でも先生方が子供たちの興味関心を重視して工夫していることがよくわかる。 先生方の負担が増えていないか心配になる。劇の小道具もとても丁寧に作っていた。 		学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 本校の目指す教師像「子どもと共に歩む教師」「使命感と情熱のある教師」「人間愛に満ちた教師」を念頭に、引き続き、指導力の向上、コミュニケーション力の発揮に努めたい。 								
安全管理・施設管理	安全安心でうるおいのある学校づくり	安全確保のための見守り活動は充実しているか	前期	A	交通安全協会の方や地域の方、保護者の皆さんが、児童の登校時の見守り活動に協力してくださったり、危険個所の情報を教えてくださったりしているため、児童は安全に登校することができている。	児童(7) 保護者(16) 教職員(19) 地域住民(9)	A	100	100	0	0	0
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	概ね高い肯定率であるが、前期と比べると数値が下がっている。後期も、交通安全協会の方や地域の方、保護者の皆さん、教員で、協力し合いながら見守り活動を行っている。体制を継続させながら、さらに児童が校内外において安全に生活できるよう努めていきたい。	児童(7) 保護者(16) 教職員(19) 地域住民(9)	A	100	75	25	0	0
		落ち着きと元気が出る、教室環境、校内掲示、屋外環境の整備が進んでいるか	前期	A	肯定率100%となった。各担当者が、季節を感じさせる掲示や児童の学習の足跡の掲示等工夫して、校内の環境整備に努めている。また、地域の方々には、学校周辺の環境整備に加わっていただき、児童が気持ちよく過ごせる環境が整えられている。	児童 保護者(17) 教職員(20) 地域住民(10)	A	100	25	75	0	0
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	前期に引き続き100%の肯定率となった。児童の実態に合わせて、落ち着いて学習に臨める教室環境を整えたり、季節や児童の成長を感じられる掲示を工夫したりした。運動会前には、地域や保護者の方に御協力をいただき、学校周辺の環境整備を行うことができ感謝している。	児童 保護者(17) 教職員(20) 地域住民(10)	A	100	60	40	0	0
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 高学年を先頭にきちんと並んで歩いており、安全に登校できている。 新しい道路ができるかもしれない。横断歩道ができるか情報を確認したい。 		学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 住民自治されだにや交通安全協会、関係諸機関との連携に努め、児童・保護者・地域住民が安心して過ごせる学校環境づくりに努めていく。 学校周辺の環境の変化については、学校としても情報を収集して対応していく。今後も安心・安全な学校づくりを目指していきたい。 								
業務改善	働き方改革と業務の効率化による心身の健康保持	校務分掌は適材適所に配置され、過度な負担となっていないか	前期	A	教職員の人数が少ないため、一人一人の校務分掌は多いが、それぞれが責任を持って行っている。	教職員21	A	100	33	67	0	0
			後期	A	今年度異動の教職員も環境に慣れて多少負担は減ったが、依然として一人一人の仕事量は多い。	教職員21	A	100	0	100	0	0
		能率的に仕事ができるよう職場内の環境を整えようとしていたか。(ICTの活用・地域人材の活用・行事精選など)	前期	A	教頭未配置のため教職員やPTAの意見を聞きながら全体のバランスも考え、最適な形を探していきたい。	教職員22	A	100	67	33	0	0
			後期	A	地域やPTAとも協議し、少しずつ行事の精選や業務の効率化を行うことができた。	教職員22	A	100	20	80	0	0
		残業は、月45時間以内となっているか。	前期	B	月45時間以内を目指しているが、年度当初などは仕事量も多く超過時間が多くなってしまう。	教職員23	B	83	17	67	17	0
			後期	A	改善傾向にあるが、複数の教職員が時間外勤務月45時間以上の月もある。引き続き改善に努めたい。	教職員23	A	100	20	80	0	0
		月100時間を越える過度残業が2か月以上続いているか。	前期	A	100時間越えの過度残業はないが、月45時間以内を目標に、効率化を図りたい。	教職員24	A	100	100	0	0	0
			後期	A	前期に引き続き、過度残業の実態はないが、校務のバランスを考え、効率化を図りたい。	教職員24	A	100	100	0	0	0
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 業務負担を減らせる部分があれば、省力化を図っていただきたい。 教頭不在の影響もあるのではないかと心配している。地域でできることがあれば協力したい。 		学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 業務負担を少しでも減らすため、職員とも意見交換しながら、効率化を図っていく。 教頭不在の影響は大きいですが、互いに補い合いながら取り組んでいく。効率化が必要な場合は関係者に丁寧に説明し協力をお願いしていきたい。 								

ご意見等

(保護者)	○子どもの特性や発達、成長、あるいは学習レベル等、それぞれの段階、状況に応じて、包括的かつ、シームレスな相談機能(医療、福祉、学校教育に関する一体的な相談窓口等)があると安心できる。
(地域)	<p>○もう少し厳しくしてもよいように思うところがありますが、今は教育情勢が変わってきているので難しいかも。</p> <p>○一人ひとりに目が届き、個性を大切にしており、地域と一丸となって家族のように温かく教育されている様子がわかります。中学や高校で大規模校に通うようになって、自信を持って堂々としていられる子に育ってほしいです。</p> <p>○小さな学校ですが、児童がのびのび育っており先生方の努力に頭が下がります。</p> <p>○昔は2時間かけて歩いて通っていましたが、車の送迎が多いと体力が少し落ちるのではないかと心配です。</p> <p>○これからも、安全、安心できる学校生活ができるようお願いいたします。</p> <p>○年々生徒数が減少し、色々な団体活動が制約されている。生徒数が減ることで、先生や周囲の目配り気配りが過多気味になって来ることにより、卒業後多人数の中で馴染めるか少々心配である。</p> <p>○児童はもちろん、保護者 教職員 地域住民の皆さんが 本当によく頑張っていると思います。</p> <p>○アンケートに回答できないところもありますが、これまでの児童の状況を振り返るとよき子供たちであることを十分に確信しております。</p> <p>○個性豊かな子どもたち一人一人を大切に育てていただき、感謝しております。これからも宜しくお願いいたします。</p>